

第6回伊賀・山城南・東大和定住自立圏推進協議会 会議録

開催日時	2022（令和4）年8月26日（金）10：00～11：10
開催場所	伊賀市役所4階 庁議室
出席者	<p>【伊賀市】</p> <p style="padding-left: 2em;">岡 本 栄（市長）</p> <p style="padding-left: 2em;">大 森 秀 俊（副市長）</p> <p>【笠置町】</p> <p style="padding-left: 2em;">中 淳 志（町長）</p> <p>【南山城村】</p> <p style="padding-left: 2em;">平 沼 和 彦（村長）</p> <p>【山添村】</p> <p style="padding-left: 2em;">野 村 栄 作（村長）</p> <p style="padding-left: 2em;">前 川 喜 正（副村長）</p> <p>【事務局】</p> <p style="padding-left: 2em;">藤 山 善 之（伊賀市企画振興部長）</p> <p style="padding-left: 2em;">福 岡 秀 明（伊賀市企画振興部次長）</p> <p style="padding-left: 2em;">中 矢 裕 丈（伊賀市企画振興部総合政策課長）</p> <p style="padding-left: 2em;">奥 沢 浩 和（伊賀市企画振興部総合政策課主査）</p> <p style="padding-left: 2em;">森 林 紗 織（伊賀市企画振興部総合政策課主任）</p> <p style="padding-left: 2em;">内 田 達 也（伊賀市企画振興部総合政策課主任）</p> <p style="padding-left: 2em;">草 水 英 行（笠置町総務財政課企画政策室室長）</p> <p style="padding-left: 2em;">井 上 浩 樹（南山城村企画政策課長）</p> <p style="padding-left: 2em;">橋 本 昌 貴（南山城村企画政策課課長補佐）</p> <p style="padding-left: 2em;">椋 本 泰 明（山添村総合政策課長）</p> <p style="padding-left: 2em;">井 上 有 貴（山添村総合政策課課長補佐）</p>
欠席者	
会議概要	<p>1. 開会</p> <p>（事務局）（福岡次長）</p> <p>お待たせいたしました。</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから、第6回伊賀・山城南・東大和定住自立圏、(略称)伊賀城和定住自立圏推進協議会を始めさせていただきます。</p> <p>私は、議事に入るまでの間、進行をさせていただきます、伊賀市企画振興部次長の福岡でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>さて、この会議については、運営規程で原則公開とし、会議の傍聴を認めておりますことから、本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等をあらかじめ許可しておりますので、ご理解いただきますようお願いいたします。</p>

2. あいさつ

(事務局) (福岡次長)

それでは、お手元の事項に沿って進めさせていただきます。

まず、はじめに当推進協議会の会長であります、伊賀市長 岡本 栄よりごあいさつ申し上げます。

(岡本会長)

それではみなさん改めましておはようございます。お集まりいただきましてありがとうございます。どこもそうかもしれませんが、第7波というものの威力がすごくて、我々の行政の中においても、家庭内感染ということが特徴的なのですが、職員の中に陽性者、あるいは濃厚接触者がしばしば出るようになりまして、事業継続ということが一つの課題かなと思っております。ただ幸いなことは、ワクチン接種を重ねていく中で、重症化することが減ってきたということですので、これはありがたいというふうに思うし、そういう意味では、若年の皆さん方にも、ワクチン接種をしっかりと推奨していくことが必要かなというふうなことを思っています。

共生ビジョンについては、今年から第2期の計画がスタートということでございます。1期におきましても、いろいろ皆さんと力を合わせて頑張らせていただきました。特に先ほどのコロナの話で言いますと、圏域間移動ということで、なかなかつらい憂き目を見るようなことが他の地域ではありましたが、我々は、生活圈、行動圏が一緒ですよということで圏域証を出しまして、皆さん方にもご利用いただけて喜んでいただけたかなというふうに思っておりますし、またこのような動き、事業が国の方でも着目していただいたようなことでございました。これからも2期でありますけれども、「圏域でつながり、暮らしの安心を支える」、「活発な交流により、賑わいを創出する」ということをさらに進めていきたいというふうに思います。伊賀市も国調の統計で、過疎地域が増えました。旧郡部の中にも増えました。ということで、共通の課題を本当によく感じられるところであり、しっかりとこういうところもそれを逆手に取った、それを強みとした、また、方策はないかなと思ったりしていますので、皆さんのお知恵も合わせて、力も合わせて頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。今日は議題が4件となっております。よろしくご審議お願いします。

(事務局) (福岡次長)

ありがとうございました。

それでは、推進協議会規約第8条により、会議の議長は会長があたるとなっておりますので、以後の進行につきましては、岡本会長をお願いいたします。

3. 議事

(1) 副会長の選任について

(岡本会長)

それでは定めるところによりまして、議事に入らせていただきます。まずは一つ目の事項、副会長の選任についてです。この協議会の副会長につきましては推進協議会規約第7条の規定によりまして、副会長は毎年度最初の会議で会長が指名する委員をもってあてるということになっていますので、本年度は中笠置町長に副会長に就任をいただきたいと思いますが、よろしいですか。

— 異議なし —

(岡本市長)

では、よろしく願いいたします。なお来年度以降につきましては南山城村、山添村の順番で就任をいただきたいと思いますが、よろしくこちらの方もご了承賜りたいと思います。

(2) 2021（令和3）年度の取り組み状況について

(岡本会長)

続きまして二つ目です。2021（令和3）年度の主な取組状況について事務局から説明をお願いします。

(事務局) (奥沢主査)

★資料1「2021（令和3）年度の主な取り組み」について説明。

(岡本会長)

説明がありましたが、質問あるいはご意見等ありましたらお伺いしたいと思います。

— 質問等なし —

(岡本会長)

よろしいでしょうか。思うことがあったら、また後ほど言っていただいて結構です。それでは、議事（2）の2021（令和3）年度の主な取組状況についての協議を終わらせていただきます。

(3) 後援およびロゴマークの使用について

(岡本会長)

続いて事項の（3）、後援およびロゴマークの使用について、事務局から説明をお願い

いします。

(事務局) (奥沢主査)

★資料2「後援等に係る事務取扱要綱」

★資料3「ロゴマーク使用取扱要領」について説明。

(岡本会長)

基本的には公序良俗に反しない利用ということですね。むしろ使っていただくことがありがたいということです。ただいま説明いただきましたが、ご意見等ございましたらお伺いいたします。

— 意見等なし —

(4) 今後の取り組み等について

(岡本会長)

それでは続きまして、今後の取り組み等について事務局から説明ください。

(事務局) (中矢課長)

★資料4「今後の取り組み等について」について説明。

①東京大学での講義

・・・2022年6月24日に講義したことを報告。

②関西SDGsプラットフォームへの参画

・・・伊賀城和定住自立圏として参画したい。

③さらなる圏域拡大に向けて

・・・引き続き近隣自治体へ参画を呼び掛ける。

(平沼委員)

④高校進学エリアの拡大に向けて

では、私の方から報告させていただきます。

先日、市長さんとお話させてもらってから早速、教育委員会の方に出向いて色々お話をさせていただいたのでご報告させていただきます。

7月28日に、相楽東部広域連合教育委員会に県外入学志願の機会確保のための取り組みについて、住民の保護者等の就学希望の意向状況について説明をしました。若干ですがこちらの方に来たいという保護者の方もいらっしゃいますので、そのことについて説明しました。南山城村の高校通学に係る制度や保護者の負担軽減の観点(通学時間の短縮)や定住自立圏の取り組みや地域間の交流や就業先もある中で、高校就学の機会を確保することは地域間の生活圈域の連携を強くする意義の大きいことという

ことも踏まえて説明させていただいた。教育委員会として、検討していただきたい旨の依頼をしました。三重県さんにおいては、県外域からの入学志願に関する要綱を見直す年度とされていることから早期に対応していただく必要があるということもあわせて説明させていただきました。

相楽東部広域連合教育委員会としては、住民の就学機会の拡大の要望があるということは理解していただき、京都府教育委員会へ改めて状況等を説明検討もしくは京都府教育委員会から三重県教育委員会への要請等を行ってもらうよう要望していく取り組みを行っていただきました。そこは確認させていただきました。

それを受けて、相楽東部広域連合教育委員会の方は8月8日、京都府山城教育局へ県外志願者受入れの機会確保の要望について説明し、京都府教育委員会（京都府庁高等学校教育課）の方へ村の要望について説明していただき、三重県、奈良県が結んでいるような協定等ができないかを含め、検討を進めていただくよう要請していただきました。これについては、本庁に既に説明を行い検討中のこと、ただし京都府も木津高など定員を割れている中で、協定等が必要なのか、協定なしで対応できないか、相楽東部広域連合教育委員会と三重県教育委員会さんとの協定に対応してもらえないかと検討しているということで答えをいただきました。

村としては、相楽東部広域連合教育委員会とともに本庁へ要請などを具体的にやっていきたいとの意向があるということもあわせて京都府教育委員会にお願いしているところです。

今後の予定としましては、本庁へ相楽東部広域連合教育委員会の教育長と私と村の議会議長と3人で要望活動を近々していこうかと予定している段階です。

（岡本会長）

正式な進め方もさることながら、やはりそれぞれの学生さん、ご家庭がより便利な方へ行きたいというようなチャンスを増やしてあげることが一番大事だと思います。先日、うちの教育長と話をしまして、奈良県とは一応の協定がある。京都府も昔は来ていた記憶があって、何かそういう協定があったというふうにも聞くのですが、今は三重県がないですよと言っている。うちの教育長と一度、村長さんたちも含めて三重県の県教委の方へ、そういうことですので一つよろしくというご挨拶に行った方が良いのかなと思っていますので、正式な進め方とはまた少し違うニュアンスですけど、皆さん方の地域の声ということでご一緒させていただこうかなと思っています。中町長ももしご都合つくならぜひよろしくお願ひしたい。

（平沼委員）

私の年代のちょうど上下ぐらいのところが一番たくさん工業高校とか上高の方にお世話になっていた。

(岡本会長)

笠置の方たちも上野工業とか上野高校とか結構行っている人が昔は多かったですけど、今はみんな木津高の方に行くのですかね。

(中副会長)

そうですね。

(平沼委員)

田辺に工業高校ができたので、そちらの方に行くようになった。この7月1日に京都府の人事異動があったのですが、教育長に早速ご挨拶しに行き、少し話をさせていただきました。

(岡本会長)

各地域で、定員割れということがありますが、三重県にとっても高校の生徒が増えるということはありがたいことだと思いますし、圏域の子どもたちが同窓になって将来を担っていくということがこれから一番大事な事かなと思う。そのようなことは未来に向けた持続という意味で大事な施策だと思っていますので、皆さま方も一つよろしくをお願いします。また、追ってそのあたりの段取りをお願いしたい。

(事務局) (中矢課長)

⑤薯蕷饅頭「瑞雲 伊賀城和」

引き続き、資料4に基づいて、5つ目です。お饅頭の話をしていただきたい。今から実物を配らせていただきます。

— 配布 —

(事務局) (中矢課長)

今、皆さんの机の上にお配りしています。薯蕷饅頭というお饅頭です。芋を饅頭の皮にしている。元々、京都で今年の1月まで実際に「瑞雲」というお饅頭で作られて、京都の方々に親しまれていたお菓子だそうで、ただ、このお店が1月で店を閉じられた。たまたまこれをSNSで見かけまして、見てもらうと分かるように当圏域のロゴマークとよく似ている。そのお店がご高齢で店を閉じられるということで、このお菓子を使わせてもらえないかとお願いさせていただいたところ了解をいただき、引き継がせていただくことになった。そこで、伊賀市内で今、営業されている紅梅屋さんにご協力してもらえないかということで、お配りしたお菓子について再現を試みていただいたというものでございます。皆さんにお味とかを確認いただいて感想を聞かせてもらいたい。これは今、餡子は普通の餡子ですが、4つの自治体の連携なので、例え

ば餡子を4つにしようかとか、いろいろアイデアを紅梅屋さんともお話しさせてもらっている。

(岡本会長)

将来的には例えば、お茶の村だったら抹茶餡があったり、あるいは伊賀は酒があるから酒饅頭みたいなものがあったり、あるいは笠置は何がよろしいですか。桜がよろしいかな。桜餡みたいな。

(中副会長)

桜餡にするか、梅餡にするか。

(岡本会長)

山添は抹茶ですかね。葉っぱを刻んで入れるというようなタイプもあれば、全体が緑の餡子もあるから、そういうので分けてもいいかもわかりません。そういう地域の特色のある餡子でやっていったら、各土地の会合とか、お土産にも使っていただけるし、セットにすれば、セットの意味もあると思う。

(事務局) (中矢課長)

今、会長も言っていたように味をどうするかということは、ここでご相談いただきたいということが一つあるのですが、もう一つ、製造する側からの課題もあって、注文する数にもよるのですが、餡子を4つ作らないといけなくなったら、まとめて注文するなら良いけども、バラで注文されてもなかなか作るのが大変かなということが実際問題の課題としてはあると聞かせてもらっています。

(岡本会長)

元々は「瑞雲」という名前だったが、伊賀で売る時は「瑞雲伊賀城和」という名前にしようかと思っている。

(事務局) (中矢課長)

4つの自治体なので4つセットにしている。イベント等で利用いただくことをぜひご検討いただきたい。

(大森委員)

これはいくらで売るのがいいか。

(事務局) (中矢課長)

聞かせてもらおうと、1個 300 円くらいで考えているということです。味をもし分け

るとなると高くなる。

(岡本会長)

このロゴマークだが、黄色の部分は月ヶ瀬も関係があるということを表している。

(野村委員)

先日、奈良市長のところへ行った。昔から3村とって、月ヶ瀬、都祁、山添は3つでいろいろとやっていた。それが、月ヶ瀬、都祁は奈良市になった。山添村は天理市とも定住自立圏を形成しているが、地理的には間に奈良市があつて飛んでいる位置にある。また、宇陀、曽爾、御杖ともいろいろやらせてもらっているが、そこにも旧都祁村が入っている。先日、奈良市長にコミュニティバスの件でお話に行った時も、月ヶ瀬と都祁とは昔ながらの付き合いがあるし、生活習慣も奈良市の平地とは違う部分がある。何とか昔のような形の繋がりができないかということで話をさせてもらい、月ヶ瀬とも交流をしだしているところです。

(岡本会長)

実は私も先日、奈良県知事とお会いした。知事も県境地域は大事だという認識は一緒で、伊賀市もそういった圏域なので何かあったら、ぜひオブザーバーとして呼んでくださいということでお話をした。大事なことはお互いに生活圏、文化圏を大事にしていくことが元になるのだろうと思います。ただ、月ヶ瀬は奈良市になってから行政的な繋がりが全くなくなってしまった。民間の交流は従前にも増してあるのですが、行政にいると我々は月ヶ瀬の人が何に困っているのか、何が協力できるのかということがよく分からない状態になっていて、観光でも月ヶ瀬は梅の名所ですが、あそこで終わってしまって、やはり皆様方のところも合わせて、ルートとして動くということが大事なのですが、それができないような感じになっているので、奈良市の方へもぜひそのあたりのことをお話してもらえるとありがたい。

(野村委員)

先ほどの高校の進学の中で、実際に今、奈良県と三重県はそういう形で繋がりがあつたのですが、今、山添村で大きな課題を抱えていて、今度、山辺高校に通信課を作ることになり、そこで通信教育という形で、広域から、三重県の方からも行けるということで、それは非常に大きいのですが、その分校である山辺高校の山添分校があるのですが、数年前から県教委の方から、分校をなくすという話がある。奈良には何校かあつたのですが、もう今、分校が残っているのはうちだけなのです。3年前から分校を本校化するという話があつて、元々は山添村立奈良県立山辺高等学校山添分校だった。それを山添村立の本校にするかどうかという話になりまして、このまま分校でいけば、職員の給与とかは県が持ってくれる。ただ、今、定員割れはずっとそうなの

ですが、今年入った子が 30 人定員のところ 6 人しか入っていないくて、また、元々その分校の存在というのが、山添村の農業であるとか、そういったものを継ぐ子たちを育てるという目的で作られていたのですが、最近は地元から行く子が少なくて、三重県や他市から来る子たちが多い。しかも、人数が減っているということで、県教委の方から、年内に方向性をきっちり決めろと催促がきまして、それで今、村の方でもどうするかという話になっている。もちろん卒業生がたくさんいますので、現在山添でいろいろ活躍してくれていて、山添村を作ってくださった方々が山添分校卒業生にたくさんおられますので、そういう方々の気持ちも大事にしたいのですが、存続となった時に、今は分校で費用の方が県持ちでいけるのですが、県の方もこの人数でこれだけ職員を雇うというのは厳しいという声も上がっているのです。今後は存続するか、それとも、今度、山辺高校に通信制ができるので、そっち側に今までの子たちをお世話になれないだろうかということも検討していかないといけない。

(岡本会長)

結構、伊賀市からもお世話になっている。

(野村委員)

特に名張からも、今、山添から名張にはコミュニティバスが走ってしまっていて、片道 200 円で、どれだけ乗っても 200 円という便利なものがある。ただ、上野方面、伊賀方面には、三重交通が走っているのでそれがない。通学の方法が、私が上高に行かせてもらっていた時には、毎朝 6 時 45 分のバスで通学していたのですが、私はたまたまバス停のすぐ近くに家があったのでラッキーだったのですが、やっぱりそこまで来ただけでも 15 分、20 分かかる子たちがいて、親に送ってもらわないといけない、家族に送ってもらわないといけないとなった時に、もう少し回数とか、時間帯を考えられないかなということ、しかし、三重交通からしたらそこは厳しいということ、そっち側の方面もコミュニティバスを出せないかなということもある。先ほど奈良市長に会ったのも奈良方面にも無いので、奈良方面にコミュニティバスを通らせてくれという話をしに行った。三重県の方もすぐには無理だが、将来的には出したい。ただ、三重交通が走っている以上は、無理なのです。営業妨害することになる。そのあたりのことも、今後ちょっといろいろ話をしていかなないといけない。

(岡本会長)

路線バスが走っている以上、なかなかそこをさわるのが難しいということもあるのだが、それはどうなのかということも言っている。だったらもう路線バスをやめて違う方法で走らせたなら良いではないかと言うと、担当課からそんな無体なことは言わないでくださいと言われる。

(野村委員)

国の施策でもそういうへき地のバスの運行には補助が出るらしいのですが、できたら名張方面だけでなく、奈良それから、都祁、天理、それから伊賀の方面に向けて今後は話をしていきたい。

(岡本会長)

バス交通というのは、生活圏の問題ですから、府県境を越えてでも結ばないといけないところがある。そういうことはこれからも考えていく必要があるだろうと思う。南山城は松笠の方を三重交通が今でも走っているのですか。

(平沼委員)

以前は走っていましたが、だいぶ前になりました。元々、村営で、それが三重交通になり、また村営になって、それを2年前に廃止して、今、デマンドタクシーに切り替えた。うちも今、伊賀市にもお願いにあがっているのですが、島ヶ原ぐらまで何とか乗り入れさせていただけないかなということは願いです。うちの住民に非常に希望が多い。

(岡本会長)

運行するについては何がネックになるのですかね。陸運とかの関係ですかね。うち中部陸運局で、皆さん方は、近畿陸運局ですよね。地方整備局についても基本的にうちは、道路行政は中部地整。これ、皆さんと同じようになるように、伊賀はいろんな意味で特区にしてもらって、管轄官庁を揃えようかなと思っているのです。

(平沼委員)

事業者がいるので、少しそういった部分で難しい面があるが、現状そういった展開で何とか島ヶ原ぐらまで行けると買い物も行けますし、お医者さんも行けたり、温泉にも行けたりして、いろんなメリットがあるので、そのあたりは何とか乗り入れさせていただけないかと思っている。

(岡本会長)

笠置町は、移動はどうされているのですか。

(中副会長)

元々、奈良交通が入っていましたが、ロータリーがないとか、お客さんがいないとかで撤退された。結局柳生方面からきていたお客さんが車でもう直接行かれるようになったので、針方面あたりの人たちというのは、直接向こうに行かれる人のほうが多いのではないかと思います。

(岡本会長)

若い人は車を運転されたり、乗ったりするから良いですけど、独居老人とか、それから障がいのある人とかの移動というのがなかなか大変。

(平沼委員)

福祉タクシーはあるが、健常者のそういった高齢者の交通手段が確保できないということで、正確には今年の3月いっぱいまで村営バスは全部なくなったのですが、バス停に行くまでの道も遠いとか、バスも幹線しか通れませんが、田舎道は軽四でもいっぱいという所もありますし、そういうところの人がやっぱり少し不便を感じているということで、ドア To ドアの交通に切り替えたということです。

(岡本会長)

私が担当課によく言っているのは、バスというのはもう置いておいて、福祉タクシーみたいなもので、例えば1人週に1往復、あるいは2往復ぐらいのチケットをあげる。それを近所で持ち寄ったら毎日タクシーを呼んで、行きたいところに行けるわけですから、そういうふうにした方が空のバスを走らせるよりも安くつく。ただ、課題は何かというと、ドライバーがいない。そのあたりがネックになってきて、タクシーの台数をどうやって確保するかということが解決できたら、その方が、小回りが利いて良いと思うが、難しい問題がいろいろそれぞれにある。やっぱり移動というものが基本。

(野村委員)

結局、中学校までは山添でいて、高校に行くのに、三重県伊賀市や奈良県奈良市、天理市の方にみんな行くのですが、通えないために、子供とともに、両方の親ではなくて片方の親と一緒に引っ越してしまう。そうなってくると、高校の次、大学に行って戻ってこられない。だからそれだけ魅力のある村にして戻ってきてくれるような村にしないとイケないのだけど、なかなか現実的に厳しい。働く場所がまずないということもある。

(岡本会長)

出ていく人もいるが、移住してきてくれることもしっかり見ていかないといけない。過疎地域になってしまいましたが、過疎地域はいろんな意味で魅力が溢れているところだと思うので、それを何かプラスに変えていくように取り組まないといけない。

(中副会長)

山添村さんでは、買い物や通院はどうされているのですか。

(野村委員)

地域によって、奈良市、名張市、天理市、伊賀市と分かれています。名張市へは先ほども申し上げたようにコミュニティバスが走っているので、名張方面に向けては順調に行っている。それを多方面にも伸ばしていきたいのですが、伸ばすためにはいろいろな壁があって、それを1つずつクリアしていかないとはいけません。

(野村委員)

実は先月、山添村は久しぶりに人口が増加した。移住住宅等もあるので、そこに引っ越してこられた方がいた。

(岡本会長)

移住しようと思ったら家がないといけません。それから仕事。その移住された人たちは、家はなんとかあったということで、仕事はどうされたのですか。

(野村委員)

詳しくは調べていないが、テレワーク等の形でやっておられる方もいる。

(岡本会長)

今はどこにいても仕事ができるような時代になっている。

(平沼委員)

南山城村でも新規就農者で2人若い子が来てくれた。

(岡本会長)

この4者は課題が共通している。今までそれぞれにいろんな方法でやっていますが、一緒になって何かするといったことは、移住交流ではなかった。だからこの地域が一体の地域だということで、アピールしていくことも大事なのかも分かりません。例えば山添さんだったら、家はあった。では上野に仕事に行こうとか、南山城だったら、若い子たちが百姓しにこられた。住むのは上野でも別に構わない。一度4市町村で一体の地域としての移住政策みたいなのを考えていかなくてははいけません。

(平沼委員)

今、二重に住民登録できるという制度に少し話が出ていますが、東京に住んでいる人がこちらの方に週3日ぐらい来て、また東京で暮らす。2つのところで住民税を払う。そういうふうにしてもらえると本当に税収が上がって良い。そしたら半分以上移住という格好になる。

(岡本会長)

半分でも住んでもらったら良い。

(平沼委員)

そういう制度を作ってもらえたらと思う。

(中副会長)

先日、京都府さんと話をしていたのだが、笠置は条件的にすごく悪いということはない。鉄道も走っているし、買い物も病院も学校もそんなに遠いということもない。

(岡本会長)

伊賀市でもそうだが、関西の情報が入ってこないとか、いろんな情報が流れないということがあるとすれば、それがネックだろう。そのあたりは我々がしっかりとクリアしていく方法を考えていかないといけない。

(平沼委員)

今、一番困っていることは、村から奈良市の方に行く道路があるのですが、ちょうど真ん中に県境がある。長い時間をかけて拡幅してきて、同じ路線なのですが、奈良市側の 300 メートルについてなかなか話がかからない。そういうときに、この定住自立圏推進協議会のように協議する場があれば話をしやすい。奈良市とはこういった場がないということがネックになってきた。

(岡本会長)

いろいろ課題はあると思いますが、一緒にやっていくということが大事なことだと思います。

(野村委員)

全ての情報等を発信するため、以前もお話をさせてもらったアプリ。今まで 11 チャンネルとかホームページとか、それから放送、防災無線等で情報を流していたものを、アプリを通して、村民に情報を流す。それから、そのアプリから例えば住民票の予約や、先ほど出ていたデマンド交通の申し込みであるとか、そういうこともできるアプリを導入しようとしている。

(岡本会長)

それぞれ皆さんいろんなアプリで地域のためにやっている。いろんな情報を見られる、情報が共有できるプラットフォームみたいなものがあると良い。

(野村委員)

それを山添村が作ったとしても、そのアプリを入れていただければ見られることは見られる。だからそのあたりを活用してみたらどうか。山添村でやっていることで、YOU という新聞に山添の記事も載せていただいて、三重県側の住民はそれを見て、山添でこんなことしていると逆に分かる形になっていてすごくありがたい。

(岡本会長)

日常の話はなかなか入ってこない。笠置が何をしているか、南山城が何をしているか、山添はどんなことが始まったかというようなことは、やはり県域を外れてしまうと入ってこない。逆に皆さん方も伊賀でどんなことがあるのかということをおそらくあまり分からないのだろうと思う。ホームページとか、そういう手段でないと分からない。だから逆にそういうことをしっかりと我々は充実させていかないといけない。またそんなことを考えてください。伊賀城和プラットフォーム。いろんな記事を共有して載せたりしていますが、例えば、それぞれの市町村でリポーターを作って折々のニュースを短くレポートしてもらって共有するというのも良いかも分かりません。うちだったらケーブルテレビでやってもらう。皆さんもありますよね、ケーブルテレビ。

(平沼委員)

地域情報は流していない。11 チャンネルが空いていて、それを活用しろということはあるんですけど、やっていないです。防災無線だけでお知らせしている。

(岡本会長)

例えば、市民、町民、村民リポーターを作って、週に1回、それぞれの地域のニュースをレポートしてもらって、持ち寄って時間枠をとったら面白いのではないか。できたら4市町村で共通の番組というか、ニュース枠ができますから、今の課題特集をして定住を促進するとか、交通を考えるとかということもやっていける。

(平沼委員)

放送とかテレビとなってくると結構ハードルが高い。YouTube を使って流すとかだったら安価でできるということは聞いている。

(岡本会長)

それぞれの事務方さんで良い方法を考えてもらったら良い。

(野村委員)

うちは基本、情報を文面で流すということが基本ですが、この前、人権を考える集

	<p>いはコロナでできなかつたので、その時流す予定だった映画を映画配信会社にお問い合わせしたら、そこだけ流すなら構わないと言われて映画を流しました。そういう形でも動画もこれからやっぱり少しずつ入れていきたいのですが、ただ、情報がいっぱいすぎて結局ずっと流さないといけないということがあって、そこを少し選定していかないといけないなと思っています。</p>
	<p>4. その他</p> <p>(岡本会長)</p> <p>今日はいろいろ前回よりも盛り上がった。事務方の方でしっかりと課題を整理して、進めるべきことは我々に報告していただいたら首長さんたちでできることは頑張りたいなというふうに思っています。事務方から何か報告とかありますか。</p> <p>(事務局) (中矢課長)</p> <p>今皆さんにお配りしている島ヶ原のイベントで竹灯りの宴という毎年されているイベントですが、これもこの定住自立圏の後援を許可しているイベントなので、よろしかったらご参画いただければなと思います。</p> <p>(岡本会長)</p> <p>絆作り交付金というものがうちにあって、自治協さんと定住自立圏の自治協さんのような団体と協働していただくと、交付金が出せる。そんなものがありますので、ぜひ使っていただけたらと思います。</p> <p>(岡本会長)</p> <p>そんなことで、今日はいろんなことがでましたけど、また、整理しておいてください。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">— 11 : 10 終了 —</p>